

擬似逆行列

塩崎 謙

November 11, 2022

1 Moore–Penrose inverse

以下はwikipediaの記事[1]を参考にした。 A を $m \times n$ 行列とする。以下の4つの条件を満たす行列 A^+ を Moore–Penrose 逆行列と呼ぶ。

1. $AA^+A = A$.
2. $A^+AA^+ = A^+$.
3. AA^+ はエルミート $(AA^+)^\dagger = AA^+$.
4. A^+A はエルミート $(A^+A)^\dagger = A^+A$.

A を特異値分解する。 $r = \text{rank}(A)$ を A の階数とする。

$$A = U \begin{pmatrix} \Sigma & O \\ O & O \end{pmatrix} V^\dagger. \quad (1)$$

ここで、 U, V はそれぞれ $m \times m, n \times n$ ユニタリ行列であり、

$$\Sigma = \text{diag}(\sigma_1, \dots, \sigma_r), \quad \sigma_1 \geq \dots \geq \sigma_r > 0, \quad (2)$$

は A の非ゼロの特異値を並べた $r \times r$ 対角行列である。上記4つの性質を満たす A^+ の存在は

$$A^+ = V \begin{pmatrix} \Sigma^{-1} & O \\ O & O \end{pmatrix} U^\dagger \quad (3)$$

とすると、

$$AA^+ = U \begin{pmatrix} 1 & O \\ O & O \end{pmatrix} U^\dagger, \quad (4)$$

$$A^+A = V \begin{pmatrix} 1 & O \\ O & O \end{pmatrix} V^\dagger \quad (5)$$

であるから、この A^+ は1,2,3,4の全ての条件を満たす。この表式から、 AA^+, A^+A は直交射影であることがわかる。問題は一意性であるが、 \tilde{A}^+ を他の解とすると、条件3,4より、

$$AA^+ = A\tilde{A}^+AA^+ = (A\tilde{A}^+)^\dagger(AA^+)^\dagger = \tilde{A}^{+\dagger}A^\dagger A^{+\dagger}A^\dagger = \tilde{A}^{+\dagger}(AA^+A)^\dagger = \tilde{A}^{+\dagger}A^\dagger = (A\tilde{A}^+)^\dagger = A\tilde{A}^+. \quad (6)$$

同様に、

$$A^+A = \tilde{A}^+A\tilde{A}^+A = (\tilde{A}^+A)^\dagger(\tilde{A}^+A)^\dagger = A^\dagger\tilde{A}^{+\dagger}A^\dagger\tilde{A}^{+\dagger} = (A\tilde{A}^+A)^\dagger\tilde{A}^{+\dagger} = A^\dagger\tilde{A}^{+\dagger} = (\tilde{A}^+A)^\dagger = \tilde{A}^+A. \quad (7)$$

すると、

$$A^+ = A^+AA^+ = A^+A\tilde{A}^+ = \tilde{A}^+A\tilde{A}^+ = \tilde{A}^+ \quad (8)$$

より。

直交射影としての性質をまとめる.

$$f: V \rightarrow W, \quad f(a_1, \dots, a_n) = (b_1, \dots, b_m)A, \quad (9)$$

$$f(a_1, \dots, a_n)V = (b_1, \dots, b_m)U \begin{pmatrix} \Sigma & O \\ O & O \end{pmatrix}. \quad (10)$$

と表示するとわかるように,

- AA^+ は $\text{Im } A$ への直交射影.
- $1_m - AA^+$ は $\text{Im } A$ の直交補空間 $(\text{Im } A)^\perp$ への直交射影.
- A^+A は $\text{Ker } A$ の直交補空間 $(\text{Ker } A)^\perp$ への直交射影.
- $1_n - A^+A$ は $\text{Ker } A$ への直交射影.

2 連立一次方程式の解

A を $m \times n$ 複素行列として, 方程式

$$Ax = b, \quad x \in \mathbb{C}^n, \quad b \in \mathbb{C}^m, \quad (11)$$

を考える. そもそも解 x が存在しない場合もある. 解 x が存在する必要十分条件は, $b \in \text{Im } A$ である. 直交射影を用いて条件を書くと, 解が存在する条件は

$$AA^+b = b \quad (12)$$

である. この表式から,

$$x = A^+b \quad (13)$$

は解の一つである. 解は一意ではなく, $\text{Ker } A$ だけの任意性がある. 任意解は $w \in \mathbb{C}^n$ を任意ベクトルとして,

$$x = A^+b + (1_n - A^+A)w \quad (14)$$

で与えられる.

References

- [1] https://en.wikipedia.org/wiki/Moore%E2%80%93Penrose_inverse